



2026年5月14日

各 位

会 社 名 株式会社F U J I
代 表 者 代表取締役社長 五十棲 丈二
(コード番号: 6134 東証プライム・名証プレミア)
問 合 せ 先 取締役専務執行役員コーポレート本部本部長 加納 淳一
(TEL 0566-81-2111)

特別損失の計上、通期連結業績予想と実績値との差異及び

剰余金の配当に関するお知らせ

当社は、2026年3月期（2025年4月1日～2026年3月31日）において、特別損失を計上するとともに、2026年2月10日に公表いたしました2026年3月期の通期連結業績予想と実績に差異が生じたので、下記の通りお知らせいたします。また、2026年5月14日開催の取締役会において、2026年3月31日を基準日とする剰余金の配当を行うことについて、2026年6月26日開催予定の第80期定時株主総会に付議することを決議いたしましたので、下記の通りお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

当社が2018年8月に子会社化したファスフォードテクノロジー株式会社（以下「FFT」といいます。）では、顧客における部材調達の遅延等の影響により、一部案件において製品の出荷および売上計上時期が、当初想定していた2026年3月から後ろ倒しとなりました。

加えて、半導体市場の変動が大きい事業環境や競争環境の変化により買収当初想定していた収益の稼得能力に不確実性が増したことから、FFTに係るのれん及び取得により発生した無形固定資産の帳簿価額を回収可能価額まで減額し、当該減少額を減損損失（9,691百万円）として特別損失に計上いたしました。

なお、半導体製造の後工程で使用されるダイボンダ（FFT製品）は、中長期的に成長が見込まれる領域であり、当社における重要な成長分野としての位置付けに変更はありません。今後は、事業構造の最適化や競争力強化に取り組むとともに、グループ内の技術・販売面でのシナジー創出を加速し、収益性の改善および持続的な成長の実現を図ってまいります。

2. 2026年3月期通期連結業績予想と実績値との差異（2025年4月1日～2026年3月31日）

(1) 業績予想と実績の差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 183,000	百万円 30,600	百万円 31,700	百万円 24,400	円 銭 277.20
実績値(B)	180,642	29,282	31,291	15,733	178.79
増減額(B-A)	△2,357	△1,317	△408	△8,666	
増減率(%)	△1.3	△4.3	△1.3	△35.5	
(参考)前期実績 (2025年3月期)	127,387	13,781	15,328	10,906	119.64

(2) 差異の理由

親会社株主に帰属する当期純利益につきましては、FF Tに係るのれん及び取得により発生した無形固定資産の減損損失による特別損失を計上したことにより、実績が業績予想を大幅に下回り、15,733百万円となりました。なお、特別損失の経緯につきましては、「1. 特別損失の計上について」をご参照ください。

3. 剰余金の配当について

(1) 配当の内容

	決定額	直近の配当予想 (2025年5月13日公表)	前期実績 (2025年3月期)
基準日	2026年3月31日	同左	2025年3月31日
1株当たり配当金	50円00銭	40円00銭	40円00銭
配当金総額	4,404百万円	—	3,551百万円
効力発生日	2026年6月29日	—	2025年6月30日
配当原資	利益剰余金	—	利益剰余金

(2) 理由

当社は、将来の事業展開に伴う資金需要に配慮しつつ、株主の皆様への継続的な利益還元を経営の最重要政策のひとつとして位置づけ、配当性向50%を基本とするよう努めることを基本方針としております。この基本方針のもと、当社を取り巻く経営環境および通期連結業績を踏まえ、2026年3月期の期末配当におきまして、普通配当を前回予想の1株当たり40円から10円増配の50円に修正いたします。

これにより、年間配当金は1株当たり90円（前期は80円）となります。

(参考) 年間配当の内訳

	1株当たり配当金（円）		
基準日	第2四半期末	期末	年間
当期実績及び予定	40円00銭	50円00銭	90円00銭
前期実績 (2025年3月期)	40円00銭	40円00銭	80円00銭